

校種・学年・教科等名：宇城市立三角中学校、2年、学級活動

実践名：「その情報、本当に信用していいの？～震災から学ぶ情報モラル学習～」

中学校第2学年 学級活動 学習指導案

日時：9月 日 ()

場所：三角中学校 2年教室

授業者：教諭 前川 和宏

1 単元名（主題名・題材名）

安全への知恵「その情報、本当に信用していいの？～震災から学ぶ情報モラル学習～」

2 単元（主題・題材）について

(1) ねらいについて

○ 東日本震災では様々な情報が飛び交った。そんな中で、身近な生活情報の入手に役立てられたのが、Twitter(ツイッター)※だと山形大学の加納寛子准教授は指摘している。Twitterでは、携帯電話が充電できる場所や、水が確保できる場所などの生活情報が繰り返しRT(リツイート：繰り返しメッセージが送信されること)されていた。しかしTwitterでは、有益な情報が入手できる反面、多くの発信者は無責任な個人であるため、デマや、デマとはいえないが、自分の憶測や希望的観測だけの無責任なつぶやきも多数あることを認識しておく必要があった。また、放射能測定情報では公式発表の値と大きく異なる値を見て、正確な値ではないのではないか等のデマ情報がツイッター上で飛び交った。気軽に情報発信できるツイッターという新しいメディアにおいても、ネット上の信頼できる情報と、そうでない情報をどう区別するかは、情報モラル教育上の大きな課題である。この学習では情報を信頼する根拠は何かを考えることを通し、情報メディアの専門家の意見も交えて、情報の信頼性を判断する力の向上をめざす。

※Twitter(ツイッター)…140文字以内の短い文章を書き込むコミュニティサイト。リアルタイムに情報を発信でき、ミニブログなどとも呼ばれている。

(2) 児童（生徒）の実態について

○ 本学級は、男子14名、女子17名、計31名の学級である。発表することに抵抗を持っているものの、男女仲はよく何事にも意欲的に取り組む集団である。携帯電話の所有率はまだ低く、プロフ等を持っている生徒も少ない。また、ネット上の情報は信頼できないと自覚はしていても、日常生活でも「○月○日に九州でも大地震が起こるらしい。」「芸能人が三角港に来るらしい」等の噂話に左右されている生徒も見受けられる。震災でどのようなツイッター情報やデマメール等が広がったのかを資料として使い、その情報は本当なのか、誤った情報、嘘の情報を流さないためには、自分自身がどのような事に関心をつければよいか等を考えさせる。

(3) 資料について

資料1：スライド「デマ情報のチェーンメール」

【情報モラル研修教材 2005】<http://sweb.nctd.go.jp/2005/index.htm> より

資料 2 : 財団法人日本データ通信協会迷惑メール相談センター報道資料

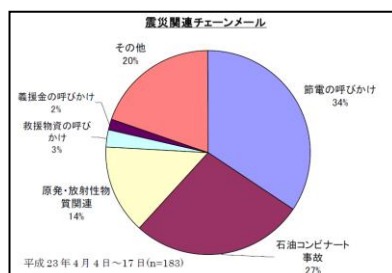
<http://www.dekyo.or.jp/soudan/eq/index.htm>

資料 3 : 少年写真新聞「学校コンピュータ」(2011年6月8日号)

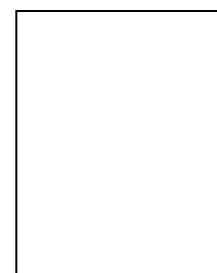
<http://www.schoolpress.co.jp/news/11/gc.htm>



【資料 1】



【資料 2】



【資料 3】

資料 1 では中学生が興味を持つ、アイドルグループやお笑い芸人が来るという例を提示する。ネット上の情報では、信憑性は検証されず、一方的かつ恣意的な情報もかなりあることや、デマ情報がチェーンメール化して多くの人が被害にあう例を提示することで、ネットの情報を取り扱う際に、気をつけるべきことや、身につけるべき態度などの安全へ意識を高めさせる。また、資料 2 の震災関連のチェーンメールや悪質メールの分析結果と内容を紹介する。震災という混乱した状況下では、情報の判断が難しくこの種の情報が広がっていったリアルな現実を知らせる。さらに、資料 3 の誤った情報、うその情報を防ぐ 4 つの留意点がなぜ必要か、情報を正しく安全に活用するための知識を身につけさせる。

(4) 指導にあたって

- ① 震災情報でツイッター等の ICT 機器が、被災者の生活に役立っている現実とともに、震災関連のチェーンメールや悪質メールがあることも知らせ、責任ある情報発信するためには、情報を見極める力が必要であることを理解させる。
- ② 誤った情報やうその情報を広げないためには、どんなことに留意すればよいか出させ、なぜそうした留意点が必要なのか考えさせる。

(5) 情報モラル教育の視点から

- ① 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「3 安全への知恵」、項目「e4-1 情報の信頼性を吟味できる。」との関連を重視して展開する。
- ② 導入時の震災関連のチェーンメールや芸能人情報のうその情報事例や、実際の迷惑メール等の集計結果を教材として使うことで、情報の信頼性を吟味する現実感や切迫感を持たせたい。
- ③ 責任ある情報発信のためには、情報が正しいか見極める知識と技術が必要であることに気づかせる。

(6) 人権教育の視点


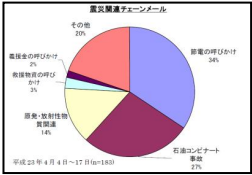
- ① 自分の考えを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。
- ② 他の人の意見も尊重しながら、ともに学習しようとする態度を育てる。

3 本時の学習 (1 / 1 時間)

(1) 目標

スライドや震災関連のチェーンメールからネットの情報には、何らかの意図があり、すべてを正しいと判断することは危険であることを知り、情報を見極める力と、適切に対処していく態度を身につける。

(2) 展開

| 過程 | 学習活動 | ○主な発問と児童の反応 | 教師の指導と評価 | 備考 |
|---|--|--|--|-------------------|
| 導入 10分 | ①スライドを見て、チェーンメールでのトラブルについて話し合う。  | ○主な発問 「どうしてこんな事になったのでしょうか？」 ・情報を信じたから。 ・確認しなかった。 ・メールで広げた。 「今日はネット上での事例をもとに、情報の信頼性について考えていきます。」 | ・それぞれの事例の問題点を出させ、情報をむやみに信用しないとことを確認する。 | 資料1 PC PJ |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題 ネット上の情報の信頼性について考えよう</p> </div> | | | | |
| 展開 35分 | ③発信源や内容によって、情報の信用度が変わってくることを知る。 | 「あなたは、誰の、どんな情報だったらその情報を信用しますか？」 ・発信源はTVや新聞などのメディアだけでなく親友からの情報、ネット情報なども考えさせる。 | ・内容よりも、情報の発信元が何処か、誰かによって判断している生徒もいることに気づかせたい。 | カード |
| | ④震災関連のチェーンメール、悪質メールの実態を知る。  | 「震災の時、このようなチェーンメールや悪質なメールがあったそうです。」 ・善意と思ってメールしても、チェーンメール化してしまう事もあることを知らせる。 | ・ツイッター情報が被災者へ有効な情報通信手段だったことを知らせた上で、実際のデマ情報やチェーンメール等の新聞記事等を見せる。 | 資料3 |
| | ⑤情報発信する際に気をつけることを考える。 | 「では、あなたは誤った情報やうその情報を広げないために、どのようなことに注意しますか？」 ・情報の出所を確かめる 【発信源】 | ・留意点を出させ、なぜそのような注意が必要なのか、ネット情報の特性から考えさせる。 【思考・判断】 | 資料4 ワークシート |

| | | | | |
|-----------|------------|--|---|-----|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・いつの情報か確かめる。 【発信時期】 ・他の情報と比べる。 【クロスチェック】 ・確認せずに発信しない。 【確認発信】 | <ul style="list-style-type: none"> ・誤った情報やうその情報を広げないため情報発信のあり方について自分なりに考えることができたか。 | |
| まとめ 5分 | ⑦授業の感想を書く。 | 「今日の授業の感想を書きましょう。」 | <ul style="list-style-type: none"> ・感想を書かせ、安心の知恵として、情報受信、発信の4つの留意点を再度まとめる。 | シート |

4 全体計画

| 情報モラル（中目標） | 道徳、各教科・特別活動 他 |
|---|--|
| a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え行動する。 | 道徳 「たまにはメール来なくてもいいかも？」 1-(1)節度「健康や時間の大切さを自覚し、節度と節制に努め調和のある生活をする。」（本時） 心の触れ合い「ごあいさつのすすめ」2-(1)礼儀 |
| b4-1：個人の権利・人格権・肖像権などを尊重する。 b4-2：著作権などの知的財産権を尊重する。 | 道徳 規則の意義「二つの手紙」4-(2) ・社会の秩序と規律 技術【関連】技：TRY「著作物の利用の仕方」（知的財産権） |
| c4-2：情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る。 c4-3：契約の基本的な考え方を知りそれに伴う責任を理解する。 | 社会「社会の発展と新しい人権」 ・知る権利とプライバシーの権利との関連を考える。 家庭 わたしたちの消費と環境「消費者としての自覚をもとう」 ・悪質な商法の種類やトラブルについて理解し、契約の意味を知る。 |
| d4-2：トラブルに遭遇したとき主体的に解決を図る方法を知る。 | 家庭 わたしたちの消費と環境「消費者としての自覚をもとう」 ・トラブルへの対処法を考えることができる。 |
| e4-1：情報の信頼性を吟味できる。 | 学級活動 「安全への知恵「その情報、本当に信用していいの？～震災から学ぶ情報モラル学習～」 情報の信ぴょう性を判断する力を身につける。 技術 情報とわたしたちの生活「インターネットで情報を収集しよう」（情報の信憑性） ・インターネットによる情報収集の方法について理解する。 【関連】「情報伝達の方法を調べてみよう」 ・いろいろな情報を伝達する手段の特徴や利点について調べ、比較する。 |
| f4-1：健康の面に配慮した情報メディアとの関わり方を意識し行動できる。 | 国語 【関連】「メディア社会を生きる」 ・メディア社会やメディアの働きに関心を持つ。 |
| g4-1：情報セキュリティの基礎的な知識を身につける。 | 社会 「情報社会と私たちの責任」 ・情報社会の一員として責任ある行動の必要性を理解する。 |
| h4-1：基礎的なセキュリティ対策が立てられる。 | 道徳 規則の意義「二つの手紙」 ・社会の秩序と規律 4-(2) |
| i4-1：ネットワークの公共性を意識して行動する。 | 社会 マルチメディアの活用「現在の情報通信ネットワーク」 ・インターネット等（マルチメディア）の利用分野を知る。 【関連】道：プラットフォーム「よりよい情報社会のために」 |